

内視鏡検査と黄疸について

(内視鏡検査や治療が有効な黄疸について教えてください)

今回のテーマは黄疸です。

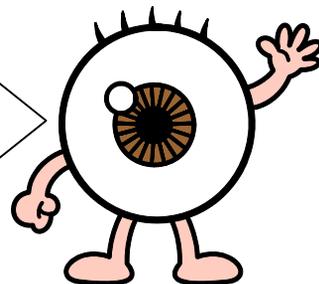
黄疸とは血液中にビリルビン(赤血球に含まれるヘモグロビン中のヘム(鉄)の生分解産物で胆汁色素といいます。)が過剰にあるために皮膚の色や眼球結膜が黄色に染まった状態です。

ビリルビンの種類には直接ビリルビンと間接ビリルビンの2種類があります。ヘモグロビンが脾臓で分解されると間接ビリルビンになり、肝臓へ運ばれて解毒化(グルクロン酸抱合)されて、直接ビリルビンになります。直接ビリルビンは水に溶けやすく、胆汁中に排泄されて、胆嚢、胆管から十二指腸へと流れ出ます。

身近に感じる胆汁の色は便の色です。

黄疸の原因はこのビリルビンの代謝(合成、輸送、排泄障害や通過障害)が滞るからです。

だんだん黄色く
なってきます...



このうち、総胆管結石、胆道や膵臓の悪性腫瘍など胆道系の閉塞(胆汁の流れが悪くなる)による閉塞性黄疸の診断には内視鏡検査が有用です。

胆汁が腸管に流れ出るところは、十二指腸のVater(ヴァター)乳頭ですが、ここから内視鏡的にチューブを挿入して造影し、胆道や膵管の異常を診断します(内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査: ERCP)。

さらに内視鏡的治療の進歩により、Vater乳頭を切開して総胆管結石を砕いて採石したり、胆汁を総胆管から排出するチューブ(ステントチューブ、ENBDチューブ)を挿入し、黄疸を改善する治療をします。

黄疸が増強すると、急激に全身状態が悪化する場合があります。緊急検査、緊急的な処置・治療が必要なことがあるので、緊急内視鏡検査や治療に対応できる病院を受診することが大切です。

当院では、膵胆道系の緊急内視鏡検査に対応していますので、ご相談ください。

練馬総合病院

TEL 03-5988-2200(代表)

